

A Study of Expression Traits of Creative Dance to Music as Stimuli

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/20437 |

音楽刺激によるダンス創作の表現特性に関する研究

吉 川 京 子

A study of expression traits of creative dance to music as stimuli

Kyoko YOSHIKAWA

は じ め に

ダンスは、イメージと運動の連合として、その内的形式と外的形式を融合して表れる特性を持っている。松本⁴⁾は、ダンス学習の分野を、A.舞踊運動への挑戦 B.舞踊表現への挑戦 C.舞踊作品への挑戦 D.鑑賞力の深化 E.創作過程での人間交渉と変容に類別し、ダンス学習の過程として、動きからイメージへという動きの探求、イメージから動きへという表現の探求、イメージと動きから構造化へという作品の探求、イメージと動きの関わりをみわける鑑賞の探求をあげている。「イメージから運動へ」「運動からイメージへ」、それは、舞踊を探求する両極のベクトルであるとしている。イメージ(内的形式)と運動(外的形式)の融合を求めて、創意の過程は展開される。

イメージを喚起させる刺激としては、動き、言語、音楽、絵画など、身のまわりのあらゆる刺激が考えられる。特に、音楽は、舞踊と同様に、リズム、時間的流れを持つという特質上、ダンス創作の刺激となることが多い。しかし、音楽刺激としてどのような曲を選択すればよいのか明らかにされていないため、ダンス教育において、音楽刺激が効果的に用いられているとは言い難い。従って、ダンス創作のための音楽刺激を選択する尺度を求めることが必要である。

そこで、これまでに、音楽刺激のイメージ調

査をSD法により実施し、音楽刺激から踊りにしてみたい曲を選択させる実験を行い、数量化III類の多変量解析法を用いてデータ処理をし、踊りにしてみたい曲のイメージ構造を求め、基準構造を導きだした¹⁴⁾。また、基準構造は、サンプル群の特徴と曲自体の特徴を弁別する2次元尺度として利用できることが確かめられた¹⁵⁾。

ダンス作品は、イメージと動きの融合によって完成される。従って、基準構造に位置づけられた音楽刺激を用いて、実際にダンス創作を行うと、どのようなイメージを喚起し、どのような動きを生みだしていくのかを明らかにすることが、ダンス指導の指標を得るのに必要且つ重要である。

I 目 的

本研究では、基準構造を尺度として選択した音楽刺激が、ダンス創作において、イメージ及び動きにどのような表現特性をもたらすのかを明らかにすることを目的とする。

II 方 法

1. 音楽刺激の選択

音楽刺激としては、「ダンス創作のための音楽刺激のイメージ構造の研究」¹⁴⁾で求められた基準構造(図1)に認められた5つのカテゴリーを代表するという意味で、「ダンス創作のための音楽刺激のイメージ構造の研究(II)」¹⁵⁾で基準

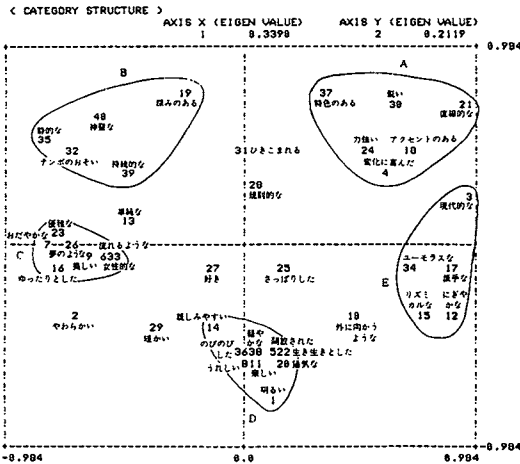


図1 踊りにしてみたい曲のイメージ構造

表1 音楽刺激

| カテゴリー | 曲 目 | 演 奏 者 | 速 度 | 演奏楽器 |
|-------|--------------------|-----------|-------|-----------|
| A | MYSTERIOUS BOY | 東海林 修 | J=108 | シンセサイザー |
| B | NOT YET REMEMBERED | BRIAN ENO | J= 54 | ピアノ |
| C | 山水 | 瀬戸 龍介 | J= 44 | 笛、パーカッション |
| D | KILIMANJARO | CUSCO | J=138 | シンセサイザー |
| E | TIME OUT | MATERIAL | J=152 | ギター、ドラムス |

構造上に位置づけられた音楽刺激の布値を基に、5曲選択した（表1）。

2. 実験方法

日時：1989年5月

場所：金沢大学小体育館

被験者：金沢大学教育学部体育専攻学生5名（ダンス歴2年）、金沢大学創作舞踊部学生5名（ダンス歴1～3年）、20～22歳の計10名であった。

各被験者は、レオタードとタイツを着用した。ビニールテープで、各被験者の手首、肘、肩峰、胸、腰、体側、脊柱、胸骨、胸骨柄、大転子、膝、足首にマーキングを行った。

音楽刺激を被験者に2分間聞かせ、その後1分間の時間を与えた。この計3分間で、音楽刺激から浮かんだイメージをできるだけたくさん自由記述させた。次に、浮かんだイメージから、ダンス作品を5分間で創作させた。この間は、動いても、曲をかけてもよいとした。5分経過後、テーマを記入させ、縦6m横9mの空間内（空間は、分析用に、縦2m横3m毎にラインテープがひかれ、9つに区切られている）で、作品を発表させ、これを、ビデオカメラ（National AG-300）で撮影した。ビデオカメラの位置は、表現空間の中心から18mの距離で、高さは1mとした。

一人の被験者に、異なった音楽刺激で、この手順を5回繰り返した。被験者に与える音楽刺激の順序はランダムとした。

3. 分析方法

1) イメージ語の分類

イメージ語の分類には、松本らの「課題学習とダンス・イメージ—舞踊連想用語の収集・分析—」⁹⁾での分類方法を用いた。分類項目は、I. 自然現象（1.動物 2.植物 3.自然現象）II. 生活事象（4.物質 5.遊び・スポーツ 6.人と生活）III. 思想・感情・抽象（7.夢・物語 8.感情 9.感覚 10.抽象）であった。

更に、〈8.感情〉の項目のイメージ語に関しては、感情表現辞典⁹⁾により、「喜・怒・哀・怖・恥・好・厭・昂・安・驚」の10種の項目に分類した。

2) 動きの分類

動きの分類は、運動様式の分類と運動を構成する要因である、時間性、空間性、力性の観点により行った。

表2 動きの分類項目

| 姿勢（床との接点） | | | | | | 動き（頭） | | | 動き（上肢） | | | 動き（体幹） | | | | 動き（下肢） | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|----|----|----|----|----|-------|-----|----|--------|-----|-----|--------|----|----|-----|--------|----|----|-----|----|----|----|----|-----|----|-----|------|-----|-----|----|----|
| 頭 | 足裏 | 手足 | 臀部 | 背中 | 体側 | 腹部 | 曲げる | 回す | 振る | 伸ばす | 曲げる | 捻る | 回す | 振る | 伸ばす | 曲げる | 捻る | 回す | 揺れる | 歩く | 走る | 跳ぶ | 回る | 転がる | 這う | 倒れる | ステップ | 伸ばす | 曲げる | 捻る | 回す |

(a)運動様式

運動様式の分類に関しては、渡辺らの「舞踊表現における身体運動の分析・分類方法に関する一考察」¹⁸⁾を参考に、以下のように分類表を作成した。どの身体部位が床と接しているかによって姿勢を分類し、更に、身体を頭、上肢、体幹、下肢に分け、各身体部位の動きを分類した(表2)。

収録した作品をVTRで再生し、分類表に基づいて分析した。表現性をもちうる最小単位であるフレーズを区切りとし、同一のフレーズが繰り返される限り、一つのパターンとみなし、分析は、パターン毎に行った。また、上肢と下肢については、左右で動きが異なる場合には、分類項目の2項目同時にチェックした。同様に、床と接する身体部位が複数の場合も、複数項目にチェックした。これらについては、結果を処理する段階で、複合項目として分類表に加えた。

(b)時間性

各作品の所要時間を計測し、各作品のパターン数を数えることによって、所要時間とパターン数から単位時間(10秒間)当りのパターン数を算出した。

(c)空間性

斎藤の「伴奏音楽と舞踊表現との関連についての研究」¹⁰⁾での方法を用い、9つに区切られた空間の利用頻度を求めた。

(d)力性

VTRに収録された50作品を、20名の女子大学生(金沢大学教育学部体育科3年生、ダンス歴1年)に見せ、各作品毎に評定させた。評定には、柴の「舞踊運動とその表現に関する研究(そのII)—Energyを中心に—」¹³⁾で、客観的に動きの力性を把握できると認められた4対の評定語(直線的な—曲線的な、速い—遅い、アクセント有り—流れるような、急変的な—持続的な)を用い、5段階評定法を採用した。「直線的・速い・アクセント有り・急変的な」は、力性が強く、「曲線的な・遅い・流れるような・持続的

な」は、力性が弱い評定語として使用されている。力性が強い方を1弱い方を5として計算し、刺激曲毎に各項目の平均値と標準偏差を求めた。

III 結果と考察

1 イメージ語の分類

表3-1~5は、音楽刺激から得られたイメージ語を刺激曲別に分類したものである。

イメージが多く出現した項目が、音楽刺激によって異なっていることがわかる。

イメージが多く見られた項目としては、「特色のある」「鋭い」「直線的な」「力強い」「アクセントのある」「変化に富んだ」というカテゴリーの刺激曲Aからは〈人と生活〉、「深みのある」「神聖な」「静的な」「テンポの遅い」「持続的な」というカテゴリーの刺激曲Bからは〈抽象〉〈感覚〉〈感情〉、「優雅な」「穏やかな」「夢のような」「流れるような」「美しい」「女性的な」「ゆったりとした」というカテゴリーの刺激曲Cからは〈自然現象〉、「明るい」「楽しい」「うれしい」「陽気な」「生き生きとした」「解放された」「軽やかな」「伸び伸びした」「親しみやすい」というカテゴリーの刺激曲Dからは〈遊び・スポーツ〉〈人と生活〉、「現代的な」「派手な」「にぎやかな」「リズムカルな」「ユーモラスな」というカテゴリーの曲Eからは、〈遊び・スポーツ〉〈人と生活〉があげられる。

表4は、〈感情〉の項目に分類されたイメージを10種類の感情語に分類したものである。

刺激曲Aでは「怖・驚」、刺激曲Bでは「喜・哀・厭・昂」、刺激曲Cでは「哀・安」、刺激曲Dでは「喜・哀・昂」、刺激曲Eでは「喜・好」の項目にイメージが見られ、刺激曲によって異なっていることがわかる。刺激曲Bについては、「希望」と「悲哀」、「あきらめ」と「強い意思」、刺激曲Dについては、「希望」と「挫折」という相反する感情語が得られた。また、刺激曲Bは、4項目に渡って感情語が見られ、様々な感情を

表3-1 曲Aから得られたイメージの分類

| | I 自然現象 | II 生活事象 | | | III 思想・感情・抽象 | | | |
|------------------|--------|---------|-----------|---|--------------|--------------------------------------|--|--|
| | 3 自然現象 | 4 物質 | 5 遊び・スポーツ | 6 人と生活 | 7 夢・物語 | 8 感情 | 9 感覚 | 10 抽象 |
| イ メ ー ジ | | | | ギャング(2) 追跡(2) 犯罪(2) あやしい影 たくらみ 真夜中の徘徊 暗闇の中に人が逃げ 込んできそうろう ろしている 捕まりそうで捕まらない 追う人、追われる人 先はだいたいしょうぶ だった、逃げれる 犯人が逃走している暗闇 ある事件の発生 黒い服の男 洞窟を探索している 泥棒 しのび足、ドロボー 戦う | 悪魔 | 奇怪な 恐怖 なにかはっとする 妙な不安感が付きまとう | 闇(3) 暗 暗闇 暗闇の中で薄らとし た明りがはんのり と漂っている 不気味 今にも何か起こりそ うな予感 災難の前兆 悪いことが起きそう 周囲の環境を受けつ けないという底の ところでの反抗 | 危険 危険が迫っている 疑惑 未知の世界 未知のものへの 水面下の戦い 次から次へと難関 が待っている |

表3-2 曲Bから得られたイメージの分類

| | | | | | | | | |
|------------------|--------------|--------|-------|---|---------------|--|--|--|
| イ メ ー ジ | 潮 霧がかった風景 | 白いカーテン | 海をもぐる | 眠い真夜中 失恋 試合に負けた 幼い さまよい歩く 静かな午後 おやすみなさい | 枕元にてで くる神様 | 悲しみのどん底にいる私 誰かに言いたいようなで も自分で思っていた方 がよいような 一人ぼっちでしょげ ている つらいことがあった 挫折 とまどい 悲哀 とまどい 強い意志 苦勞して必死になってい る所へほんの少しの希 望が見え隠れしている | 重苦しい 疲れ 暗い 動けない ずしっと重い 情緒がある 開 ゆったりした とても暗い、でも落 ち込んでる時と は違う 静 幻夢的 冷たい | 思い出 幻想 静けさ 昔を回想している ひと昔前を思い 出す 幽玄 美 単調 流れゆく時 私って一体、何？ ちっぽけな私 終わり 静寂 |
|------------------|--------------|--------|-------|---|---------------|--|--|--|

表3-3 曲Cから得られたイメージの分類

| | | | | | | | |
|------------------|--|----|---|-------------|--|----------------------------------|---|
| イ メ ー ジ | 夏(3) 初夏(2) 水森 こもれ陽 流れ せせらぎ さわやかな風の せせらぎ 夏の晩、静かな 田舎でのこと 朝露の中に行ん でいる 海の中 山の静けさ 山の上の風景 山奥の村 自然 森の奥の方の川 べりにいる 春の雪解けの頃 | 冒険 | 早朝 巡礼 別れ 再開 目覚め 真夜中 日本(和) 日本の音 一人のお坊さんがか ごを被って田圃の 中を歩いている | 怪談 幽玄の世界 | 悲哀 落ち着き 心が落ち着く 孤独なので少し狂い そんな気もする | なんとなく気味が悪い 柔らかない 清涼 涼しい | 静寂 独り 不思議 神聖 美 風流 遠いところ 平凡 心を静めて無の 世界へ 清らかな心をつ くっている |
|------------------|--|----|---|-------------|--|----------------------------------|---|

表3-4 曲Dから得られたイメージの分類

| | | | | | | | |
|------------------|--|--|---|---------------|--|-------------------------------------|---|
| イ メ ー ジ | 風に向かって フラッシュ！ 弾力がとても あるゴムま りがいっぱ い弾む 汗 | 走る(3) 運動する集団 競技 エアロビクス 回転木馬 遊園地のコーヒーカップ さあ、みんないっしょに楽し もう！ さあ、遊ぼうと誘い出した くなる 輪になって踊る ライندگان DANCE/DANCE/DANCE 青春時のスポーツ | 青春 戦い 前に進もうとしてい る必死に 車が走り抜けていく 旅 いっしょにやろう！私とい っしょに！ 家の中から出ておいで！ 人がいっぱいいて密 になっている状態 キャリアウーマンの女性 都会の中の人々 健康的 | スチュワー デス物語 | 希望にみちあふれている うれしいな！ 情熱 挫折のあとに立ち直って がんばるぞ！ 熱狂 目まぐるしく忙しい が本人はどことなく 楽しそう | 大きい 明るいま 目まぐるしい 元気ある 元気 | 若い力、POWER 躍動 躍動感 躍動的 力強い 動 |
|------------------|--|--|---|---------------|--|-------------------------------------|---|

表3-5 曲Eから得られたイメージの分類

| | | | | | | | |
|------------------|---------------------------------------|--|--|-----------------------|---------------------------------|--|--|
| イ メ ー ジ | ネオンがきら きら輝いて いる 飛行機が飛び 立つ | ヘビメタのコンサート ドライブ ツーリング 遊園地で遊んでいる いるんな楽しい乗物に 乗ったり、遊んだり さあ遊ぼうってな具合に 遊んでいる様子 ロックにのっている PLAYING エアロビクス ばかになって騒いでいる ディスコ 夜通しのダンス ゲームセンター気分 | 抵抗 オレタチ、仲間 ヤンキー 夜の街 都会 車で道路を走っている コミュニケーション 宇宙通信 迫りかけている いきいきと活動している 明るい戦争 日常の様々 都会のざわめき | ロボットの カラオケ パーティ | やりた放題、好き な事に夢中 楽しむ 楽しい | 元気な エキサイトしている 発散している 動 激しさ | わいわい、がや がや 未来 若さ POWER 無秩序な 一生懸命 |
|------------------|---------------------------------------|--|--|-----------------------|---------------------------------|--|--|

分類項目の1.動物 2.植物についてはイメージに現れなかったので省略した。

表4 感情語の分類

| 刺激曲 | 感情語 | | | | | | | | |
|-----|--|---|--|------------------------------|-------------------------|---|---|--|------------------|
| | 喜 | 怒 | 哀 | 怖 | 恥 | 好 | 厭 | 昂 | 安 |
| A | | | | ・恐怖 ・孤独なので少し 狂いそうな気がする | | | | | ・なにかと する |
| B | ・苦勞して必死になっ ているところへほん の少しの希望が見え 隠れている | | ・悲しみ ・悲しみのどん底 にいる私 ・悲哀 ・一人ぼっちでしょ げている ・つらいことがあった | | | | ・あきらめ ・とまどい ・だれかに言 いたみたい なでも自分 で思ってい た方がいい ような | ・強い意志 | |
| C | | | ・悲哀 | | | | | | ・落ち着き ・心が落ち着く |
| D | ・うれしいな！ ・希望にみちあふれている ・目まぐるしく忙しいが 本人はどことなく楽し そう | | ・挫折 | | | | | ・情熱みないなもの ・挫折のあと立ちな おってがんばるぞ！ ・熱狂 | |
| E | ・楽しむ ・楽しい | | | | ・やりたい放 題好きなこ とに夢中 | | | | |

誘発していることがわかる。「怒」「恥」の項目のイメージは、どの刺激曲からも出現しなかったが、本実験の刺激曲からは、10種類の感情語の内8種類の感情語を認めることができた。

表5は、各被験者の創作作品のテーマを刺激曲毎にまとめたものである。

刺激曲A・刺激曲C・刺激曲Dでは〈人と生活〉、刺激曲Bでは、〈抽象〉、刺激曲Eでは、〈遊び・スポーツ〉に関するテーマが多く見られる。

表5 作品のテーマ

| 被験者 | 曲 A | 曲 B | 曲 C | 曲 D | 曲 E |
|-----|--------------|---------------|------------------------|------------------|------------------|
| N・A | シーッ！し ずかに | 夜に縛られて | ここはドコ？ 私は誰？ | 明日を越える | 夜の街へく りだそう |
| E・O | 逃亡者 | どうせ…… | 不気味なとき 一すきかゆ れるー | LET'S | 遊ぼう |
| S・K | 疑惑 | 潮の中、光 を求めて | 別れの朝 | YOUNG POWER | DANCING |
| K・S | 理由なき反抗 | なつかしき を求めて | 幽玄 | 汗と情熱 | 都会の雑踏 |
| Y・H | 脱獄者 | 終わり | 望郷 | はじけている 小さい豆 | ロボットの ダンス |
| F・I | 夜間徘徊 | 五里霧中 | 山奥の村の 早朝 | 回転木馬 | ツーリング |
| N・I | 追跡 | 光を我に | 静 | 働く人に | 走れ |
| Y・K | 心の葛藤 | 不安 | 働く人 | 出会い | 何も考えずに 踊っている人 |
| Y・S | 近づくと危険 | 海の背 | 真夜中の鈴 | 祭りで輪に なっている | 全身 |
| T・N | 未知のものへ | ちっぽけな私 | 日本の背 | FEELING DANCE | 宇宙通信 |

2. 動きの分類

1) 運動様式

各被験者の動きを作品毎に分類し、刺激曲別にまとめたものが表6である。

多く出現している動きが、刺激曲によって異なっており、刺激曲による動きの特徴を見ることができる。

床との接点は、刺激曲Dと刺激曲Eでは、ほとんどが足裏、つまり立位姿勢であるのに対し、刺激曲Bと刺激曲Cでは、手足や臀部も見られ、立位以外の姿勢も多く出現している。

頭の動きは、刺激曲Dと刺激曲Eでは、静止が多いが、刺激曲Aでは曲げる動き、刺激曲Cでは回す動きも多く見られる。

上肢の動きは、刺激曲Dと刺激曲Eでは、振る動き、刺激曲C・刺激曲B・刺激曲Aでは、伸ばす動きが多く、その他に、刺激曲Aでは曲げる、刺激曲Bでは回す動きも多く見られる。

体幹の動きは、どの刺激曲も伸ばす動きが多いが、その他に、刺激曲Aでは曲げる・捻る動

表6 動きの分類 (頻度)

| 曲 | 姿勢 (床との接点) | | | | | | | | | | 動き (頭) | | | 動き (上肢) | | | | | 動き (体幹) | | | | | 動き (下肢) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------|----|-------|-------|-------|------|------|-------|------|-------|--------|----|----|---------|-----|-----|----|----|---------|-------|------|------|-----|---------|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-------|-----|-----|----|-----|----|-----|----|---|----|
| | 足裏 | 手足 | 足裏・手足 | 手足・臀部 | 手足・足趾 | 頭・手足 | 頭・背中 | 臀部・背中 | 頭・手足 | 臀部・手足 | 曲げる | 回す | 振る | 静止 | 伸ばす | 曲げる | 回す | 振る | 伸ばす | 伸・曲げる | 伸・回す | 伸・振る | 伸ばす | 曲げる | 回す | 揺れる | 歩く | 走る | 跳ぶ | 回る | 捻る | 退く | 開ける | ストレッチ | 曲げる | 伸ばす | 捻る | 伸ばす | 回す | 伸ばす | 静止 | | |
| A | 172 | 10 | 13 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 81 | 25 | 16 | 80 | 90 | 48 | 5 | 20 | 32 | 5 | 1 | 1 | 90 | 60 | 33 | 6 | 13 | 32 | 34 | 7 | 25 | 6 | 7 | 4 | 24 | 27 | 25 | 2 | 1 | 7 | 0 | 1 |
| B | 92 | 22 | 10 | 25 | 2 | 1 | 1 | 0 | 2 | 3 | 4 | 52 | 19 | 15 | 75 | 76 | 20 | 0 | 37 | 25 | 2 | 1 | 0 | 91 | 26 | 14 | 9 | 21 | 34 | 2 | 3 | 9 | 2 | 1 | 3 | 7 | 45 | 62 | 1 | 4 | 11 | 0 | 7 |
| C | 128 | 22 | 9 | 12 | 0 | 0 | 2 | 0 | 3 | 0 | 1 | 64 | 34 | 11 | 68 | 95 | 35 | 0 | 33 | 11 | 3 | 0 | 0 | 106 | 36 | 15 | 4 | 16 | 30 | 15 | 3 | 20 | 1 | 6 | 2 | 8 | 42 | 23 | 4 | 2 | 7 | 0 | 14 |
| D | 202 | 2 | 6 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 48 | 9 | 18 | 142 | 67 | 40 | 4 | 27 | 67 | 7 | 1 | 4 | 143 | 34 | 20 | 5 | 15 | 17 | 42 | 32 | 19 | 4 | 1 | 3 | 29 | 35 | 18 | 1 | 2 | 3 | 8 | |
| E | 196 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 48 | 7 | 22 | 124 | 67 | 28 | 2 | 24 | 73 | 6 | 1 | 0 | 136 | 28 | 11 | 0 | 26 | 23 | 34 | 40 | 9 | 1 | 0 | 0 | 30 | 32 | 16 | 1 | 0 | 7 | 2 | 16 |

きが他の刺激曲より多く見られる。

下肢の動きは、刺激曲Aでは、走る・歩く・伸ばす・曲げる・まわる・ステップの動き、刺激曲Bでは、曲げる・伸ばす・歩く動き、刺激曲Cでは、伸ばす・歩く・曲げる・まわる動き、刺激曲Dでは、走る・伸ばす・跳ぶ・ステップの動き、刺激曲Eでは、跳ぶ・走る・ステップ・伸ばす動きが多く見られる。

2) 時間性

表7は、動きの分類で得られたパターン数と表現時間から、各作品の単位時間（10秒間）当りのパターン数を求め、刺激曲毎にまとめたものである。

刺激曲Bが最も少なく、刺激曲Eが最も多い。従って、刺激曲Bは、ゆっくりと動き、刺激曲Eはすばやく動いていると言える。刺激曲Bは、「テンポのおそい」「持続的な」というカテゴリーを含む曲であり、刺激曲Eは、「リズムカルな」というカテゴリーを含む曲であるので、音楽刺激のイメージと動きの時間性に共通性が認められる。

表7 単位時間における動きの数

| 刺激曲 | 動きの数 | 長さ(s) | 10秒間の動きの数 |
|-----------|-------|-------|-----------|
| A | 20.2 | 92.9 | 2.17 |
| B | 16.1 | 99.2 | 1.62 |
| C | 20.2 | 92.9 | 2.17 |
| D | 21.7 | 98.6 | 2.20 |
| E | 20.1 | 73.3 | 2.74 |
| \bar{X} | 19.66 | 91.36 | 2.15 |

3) 空間性

表8は、各空間の利用頻度と割合を刺激曲別に示したものである。

空間の使用頻度の合計は、刺激曲B・刺激曲Cが少ないのに対し、刺激曲D・刺激曲E・刺激曲Aは多い。刺激曲Bが最も少なく、刺激曲Dは、刺激曲Bの2.4倍と最も多い。空間の使用頻度が多いということは、移動する動きが多いということである。従って、刺激曲Bは、移動する動きが最も少なく、刺激曲Dは、移動する動きが最も多いと言える。

どの刺激曲においても、最も多く利用された

空間は、中央で、20～30%であった。その他に、刺激曲Aでは、中央左右と中央奥、刺激曲Bでは、左斜め奥と中央奥、刺激曲Cでは、中央左右、刺激曲Dと刺激曲Eでは、中央左右、中央奥、左斜め奥の空間利用が多く、11～19%であった。刺激曲A、刺激曲C、刺激曲D、刺激曲Eは中央左右の空間を多く利用しているのに対し、刺激曲Bは、中央左右の空間の利用は少なく、他の刺激曲とは異なっている。

水谷・三浦⁷⁾は、空間の持つ性格として、中央奥は、厳肅、重々しさ、威厳、権威などを表すのに、斜め奥は、暗い、寂しい、悲しい、苦しい、無気味、幻想的、ロマンチックな表現に適した場所としている。刺激曲Bは、「深みのある」「神聖な」「静的な」「テンポのおそい」「持続的な」曲であった。従って、刺激曲Bで多く利用された空間は、その空間の持つ性格に、刺激曲Bのイメージと共通性を認めることができる。

表8 空間利用の頻度(回数)と割合(刺激曲別)

| 空間 | 刺激曲 | | | | | 合計 |
|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----|
| | A | B | C | D | E | |
| 空間1 (中央手前) | 12 (6%) | 4 (4%) | 11 (9%) | 17 (7%) | 11 (5%) | 55 |
| 空間2 (中央) | 46 (23%) | 29 (29%) | 30 (26%) | 47 (20%) | 66 (30%) | 218 |
| 空間3 (中央奥) | 25 (12%) | 17 (17%) | 9 (8%) | 32 (13%) | 26 (12%) | 109 |
| 空間4 (左斜め前) | 13 (6%) | 6 (6%) | 6 (5%) | 13 (5%) | 9 (4%) | 47 |
| 空間5 (右斜め前) | 14 (7%) | 3 (3%) | 8 (7%) | 15 (6%) | 13 (6%) | 53 |
| 空間6 (左斜め奥) | 13 (9%) | 19 (19%) | 10 (8%) | 26 (11%) | 23 (11%) | 91 |
| 空間7 (右斜め奥) | 18 (9%) | 9 (9%) | 10 (9%) | 15 (6%) | 13 (6%) | 65 |
| 空間8 (中央左) | 32 (16%) | 6 (6%) | 16 (14%) | 35 (15%) | 30 (14%) | 119 |
| 空間9 (中央右) | 26 (13%) | 8 (8%) | 18 (15%) | 40 (17%) | 29 (13%) | 121 |
| 合計 | 204 | 101 | 118 | 240 | 220 | 883 |

4) 力性

表9は、各刺激曲10作品、計50作品の動きの力性に関して20名が評定した結果である。刺激曲毎に各項目の平均値と標準偏差を示した。合計が低いほど力性が強いことを意味する。

刺激曲Dと刺激曲Eは、力性が強く、刺激曲Bと刺激曲Cは、力性が弱く、刺激曲Aの力性は、中程度であると言える。

表9 力性に関する調査結果

| | 項目1 | | 項目2 | | 項目3 | | 項目4 | | 合計 | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|
| | Mean | SD | Mean | SD | Mean | SD | Mean | SD | Mean | SD |
| 刺激曲A | 2.97 | 1.12 | 3.31 | 0.96 | 2.52 | 1.04 | 2.91 | 1.13 | 11.71 | 2.99 |
| 刺激曲B | 3.78 | 1.19 | 4.53 | 0.66 | 4.05 | 1.02 | 4.19 | 0.86 | 16.55 | 2.71 |
| 刺激曲C | 3.55 | 1.18 | 4.36 | 0.76 | 3.71 | 1.08 | 3.77 | 1.05 | 15.36 | 3.07 |
| 刺激曲D | 2.50 | 1.13 | 1.93 | 0.85 | 2.23 | 1.08 | 2.65 | 1.05 | 9.31 | 2.88 |
| 刺激曲E | 2.29 | 1.09 | 2.06 | 1.15 | 2.44 | 1.12 | 2.90 | 1.13 | 9.76 | 3.55 |

柴¹³⁾は、「ゆっくり、流れるような、持続的な、静かな」舞踊運動は、力性が弱い感じに受けとられ、「スピードのある、急変的な、アクセントのある、激しい」舞踊運動は、力性が強い感じに受けとられると言及している。力性が弱いと評価された刺激曲Bは、「テンポのおそい、静的な、持続的な」というカテゴリーを含み、刺激曲Cは、「流れるような」というカテゴリーを含んでいることより、力性の弱い、刺激曲Bと刺激曲Cにおいては、音楽刺激のカテゴリーと舞踊運動のイメージに共通性を認めることができる。しかし、力性が強いと感じられるとされる「アクセントのある、変化に富んだ」というカテゴリーを含む、刺激曲Aの力性は中程度であり、強い力性に関しては、音楽刺激のカテゴリーと舞踊運動のイメージに共通性を認めることはできなかった。

刺激曲Bは、各項目共に最も高く、刺激曲Dは、各項目共に最も低い。特に、項目2（速い－遅い）は、刺激曲間で最も顕著な差が認められる。この結果は、柴¹³⁾が、力性の強さを決定する第一条件はスピードであると言っていることと一致する。

IV まとめ

本研究は、前回の研究で求められた基準構造（踊りにしてみたい曲のイメージ構造）を尺度として選択された音楽刺激が、ダンス創作において、どのような表現特性をもたらすのかを明らかにするために、音楽刺激によるダンス創作の実験を、女子大学生対象に行い、得られたイメージ語の分類及び創作作品を運動様式と時間性、空間性、力性の観点から分析することによって、以下の結果を得た。

1. 「特色のある・鋭い・直線的な・力強い・アクセントのある・変化に富んだ」曲からは、〈人と生活〉に関するイメージが多く、〈怖・驚〉の感情のイメージが生じた。運動は、立位で行うことが多く、頭は、曲げる、上肢は、伸ばす・曲げる、体幹は、伸ばす・曲げる・捻る、下肢は、走る・歩く・伸ばす・曲げる・回る動きが多く、移動する動きが多い。力性は、中程度であり、曲のカテゴリーと異なった。

2. 「深みのある・神聖な・静的な・テンポの遅い・持続的な」曲からは、〈抽象〉〈感覚〉〈感情〉に関するイメージが多く、〈喜・哀・厭・昂〉の感情のイメージが生じた。運動は、立位以外でも行われ、頭は、曲げる、上肢は、伸ばす・回す、体幹は、伸ばす・曲げる・揺れる、下肢は、曲げる・伸ばす・歩く動きが多い。動きが最もゆっくりしており、移動する動きが最も少なく、力性が最も弱い。曲のカテゴリーと動きに多く利用された空間の持つ性格に共通性が認められた。

3. 「優雅な・穏やかな・夢のような・流れるような・美しい・女性的な・ゆったりとした」曲からは、〈自然現象〉に関するイメージが多く、〈哀・安〉の感情のイメージが生じた。運動は、立位以外でも行われ、頭は、曲げる・回す、上肢は、伸ばす、体幹は、伸ばす、下肢は、伸ばす・歩く・曲げる・回る動きが多い。移動する動きは、少なく、力性は弱い。

4. 「明るい・楽しい・嬉しい・陽気な・生き生きとした・解放された・軽やかな・伸び伸びした・親しみやすい」曲からは、〈遊び・スポーツ〉〈人と生活〉に関するイメージが多く、〈喜・哀・昂〉の感情のイメージが生じた。運動は、立位で行うことが多い。頭は、動かさないことが多く、上肢は、伸ばす・振る、体幹は、伸ばす、下肢は、走る・伸ばす・跳ぶ・ステップの動きが多い。移動する動きが最も多く、力性が最も強い。

5. 「現代的な・派手な・にぎやかな・リズムカルな・ユーモラスな」曲からは、〈遊び・スポー

ツ><人と生活>に関するイメージが多く、<喜・好>の感情のイメージが生じた。運動は、立位で行うことが多い。頭は、動かさないことが多く、上肢は、振る・伸ばす、体幹は、伸ばす、下肢は、跳ぶ・走る・伸ばす・ステップの動きが多い。移動する動きが多く、力性が強い。

参 考 文 献

- 1) 深瀬嘉子, 二瓶浩明, 小関賢: 創作舞踊におけるイメージ分析の試み, 山形女子短期大学紀要, 15, 59-87, 1983.
- 2) 林真幾子, 田川典子, 高橋繁美: 舞踊創作に関する一考察—想像から創造への過程—, 東京女子体育大学紀要, 9, 85-93, 1973.
- 3) 松本千代栄, 柴真理子: 舞踊運動とその表現性に関する研究—Design と Tempo を中心に一, 舞踊学, 1, 2-3, 1978.
- 4) 松本千代栄: ダンス表現学習指導全書, 大修館書店, 1980.
- 5) 松本千代栄他: 課題学習とダンス・イメージ—舞踊連想用語の収集・分析—, 日本女子体育連盟紀要'82—1, 1-15, 1982.
- 6) 松本千代栄, 中村乙女, 栗原知子, 藤山恭子: 舞踊の構造・機能と要素化III, 日本体育学会第35回大会号, 771, 1983.
- 7) 水谷光, 三浦弓枝: 身体の動きによる表現, 東京光文書院, 1969.
- 8) 森下はるみ: 舞踊の動作とその表現特性, 体育の科学, 32, 10, 800-803, 1982.
- 9) 中村明: 感情表現辞典, 六興出版, 1979.
- 10) 斎藤千代子: 伴奏音楽と舞踊表現との関連についての研究, 静岡大学教育学部研究報告, 人文・社会科学篇, 33, 81-93, 1983.
- 11) 柴真理子: 舞踊運動とその表現性に関する研究—Design と Time を中心に一, 女子聖学院短期大学紀要, 10, 125-148, 1978.
- 12) 柴真理子: 舞踊の表現構造に関する一考察, 女子聖学院短期大学紀要, 13, 79-95, 1981.
- 13) 柴真理子: 舞踊運動とその表現性に関する研究(その2)—Energy を中心に一, 神戸大学教育学部研究収録, 73, 161-179, 1984.
- 14) 須郷京子, 奥正廣: ダンス創作のための音楽刺激のイメージ構造の研究, 金沢大学教育学部紀要(教育科学編), 36, 255-271, 1987.
- 15) 須郷京子, 奥正廣: ダンス創作のための音楽刺激のイメージ構造の研究(II), 金沢大学教育学部紀要(教育科学編), 37, 249-260, 1988.
- 16) 富川知加, 林真幾子: 舞踊創作に関する一考察—各被験者に見る運動発想傾向—, 東京女子体育大学紀要, 13, 57-81, 1978.
- 17) 富川知加, 林真幾子: 舞踊創作に関する一考察—各被験者に見る運動発想の傾向(II)—, 東京女子体育大学紀要, 14, 1979.
- 18) 渡辺本江, 加藤朋子: 舞踊表現における身体運動の分析・分類方法に関する一考察, 舞踊学, 5, 32, 1982.
- 19) 鷺尾滯子: 舞踊表現における音と動きに関する研究(I), 上智大学体育学紀要, 13, 40-51, 1980.
- 20) 鷺尾滯子, 大浦美代: 舞踊表現における音と動きに関する研究(II), 上智大学体育学紀要, 14, 19-42, 1981.